

原子力災害

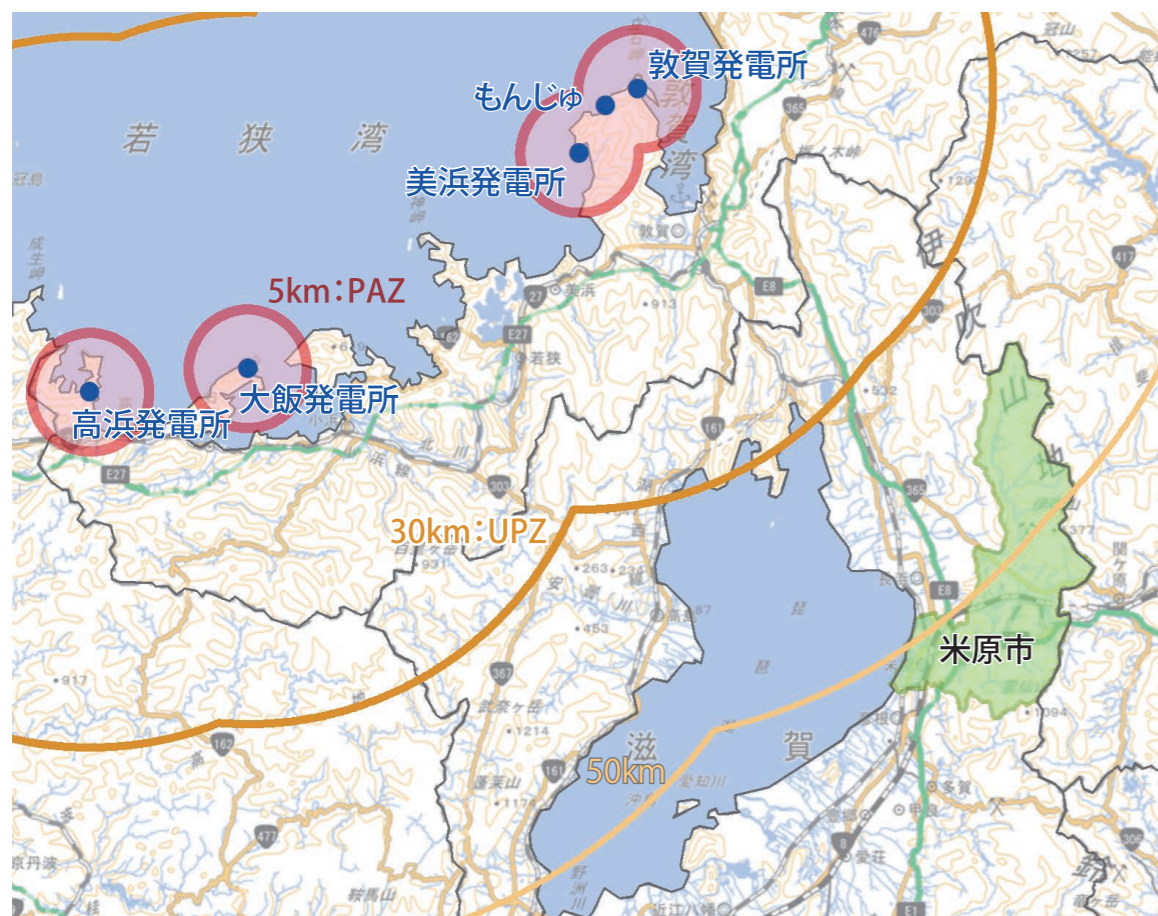
原子力災害について知りましょう

本市は、市内面積の3分の1が原子力発電所から半径50km圏内に含まれ、事故が発生した場合、気象条件によっては、放射性物質が到達する可能性があることが予測されています。

国の原子力規制委員会では、原子力発電所からの距離を目安に、その距離に応じた防災対策を実施することとされています。

本市では国の指針や滋賀県の計画の動向を的確に把握しながら、今後も地域防災計画（原子力災害対策編）の見直しを進めるとともに、原子力災害対策の検討を進めていきます。

米原市と原子力発電所の位置関係



PAZ《Precautionary Action Zone》とは

急速に進展する事故においても放射線被ばくによる重篤な確定的影響を回避または最小化するため、即時避難を実施するなど、放射性物質が放出される前の段階から予防的に防護措置を準備する区域です。原子力施設からおおむね半径5km圏を目安に設定されています。

UPZ《Urgent Protective action planning Zone》とは

原子力施設で事故が発生し、放射線測定値が一定の水準を超えた場合に、速やかに避難・屋内退避ができるように事前に計画を立てる必要がある区域です。原子力施設から半径30km圏を目安に設定されています。

避難までの流れを知りましょう（現在の国の基準）

放射性物質放出前

- 原子力発電所の状況が **警戒事態** となったとき
緊急事態が発生した直後
- 原子力発電所の状況が **施設敷地緊急事態** となったとき
事態が進展し、放射性物質の放出のおそれがある場合
- 原子力発電所の状況が **全面緊急事態** となったとき
事態がさらに進展し、放射性物質の放出の可能性が高まった場合

- 原子力発電所でトラブルや事故が発生
滋賀県や市は、「どのような事故なのか」「放射性物質がもれ出していないか」について調べます。
- 一時滞在者（観光客）などへの帰宅の呼びかけ
- 屋内退避の準備の指示
原子力発電所から放射性物質が放出されるおそれが高まった場合、屋内退避の準備指示が出ます。外にいる場合は、すぐに屋内に入れるよう準備しましょう。
- 屋内退避の指示
建物の中に入ることによって、放射性物質が体内に入り込むことを減らす効果があります。また、建物の壁は、ある程度放射線を遮ることができるので、屋内退避が効果的です。

空気中の放射線量を測ってみた結果…

放射性物質放出後

<p>1時間当たり 20 マイクロシーベルト 未満で</p> <p>屋内退避の継続</p> <p>家や学校、公共施設などの建物の中で待機する。</p>	<p>1時間当たり 20 マイクロシーベルト 以上で</p> <p>1週間以内に避難</p> <p>放射線量が高くない地域へ避難する。地域でとれた食べ物は食べない。</p>	<p>1時間当たり 500 マイクロシーベルト 以上で</p> <p>数時間以内に避難</p> <p>放射線量が高くない地域へ避難する。</p>
---	--	--

放射線の人体への影響を測る単位「シーベルト (Sv)」

放射線を受けたとき、人体への影響を表す単位を「シーベルト (Sv)」といい、「ミリシーベルト (mSv)」「マイクロシーベルト (μSv)」のように、大きさを表す記号と併せて表記します。

原子力発電所で事故が起きたときの対応を知りましょう

原子力発電所で緊急事態が起きた場合は、市から、米原市防災アプリ、屋外スピーカーや広報車などにより必要な情報を速やかにお伝えします。その情報をもとに落ち着いて行動してください。

屋内退避の指示が出たときの対応

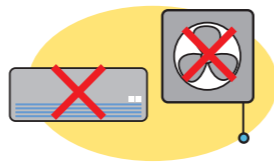
すぐに自宅(特にコンクリートなどの遮へい効果の高い場所)等の屋内に入り、次の事項を守って、被ばくや放射性物質による汚染の防止に努めてください。

コンクリート建物は、木造家屋よりも放射線の遮へい効果が大きく、一般に気密性も高いので、内部・外部被ばくの防護効果が高いと考えられています。

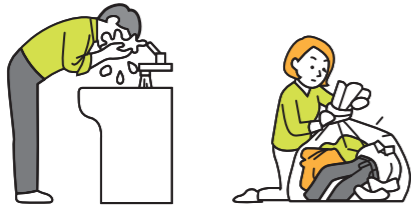
① ドアや窓を全部閉めましょう。



② 換気扇やエアコンなど、外部との空気の流れを止めましょう。



③ 外から帰ってきた人は顔や手を洗い、衣服を着替え、ビニール袋に入れましょう。



④ テレビやラジオなどでも新しい情報を確認しましょう。



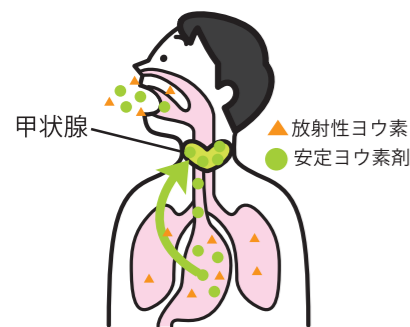
安定ヨウ素剤とは何ですか？どんな効果がありますか？

安定ヨウ素剤は、医療用の医薬品です。原子力発電所で事故が起きた際、放出される放射性ヨウ素による甲状腺の内部被ばくを抑える効果があります。

特に成長期にある子どもや若年層の服用が必要とされています。

安定ヨウ素剤を前もって服用することで、放射性ヨウ素が甲状腺にたまることを防ぎます。

服用した場合



ヨウ化カリウム丸(50mg)	ヨウ化カリウム内服ゼリー	
遮光のため赤いフィルムに包まれています。	外袋 (32.5mg入り)	外袋 (16.3mg入り)
13歳以上：丸薬を2丸 3歳以上13歳未満：丸薬を1丸	生後1ヶ月以上3歳未満：32.5mg入り1包	新生児：16.3mg入り1包

※安定ヨウ素剤は、国(原子力規制委員会)の判断により、国(原子力災害対策本部)または滋賀県の服用指示を受け、市が配布・服用指示を行います。

避難の指示が出たときの対応を知りましょう

- ① お住まいの地域の放射線量が高くなった場合、避難が必要となります。
- ② 避難の指示が出たら、身支度を整え、市の指示に従って落ち着いて行動してください。

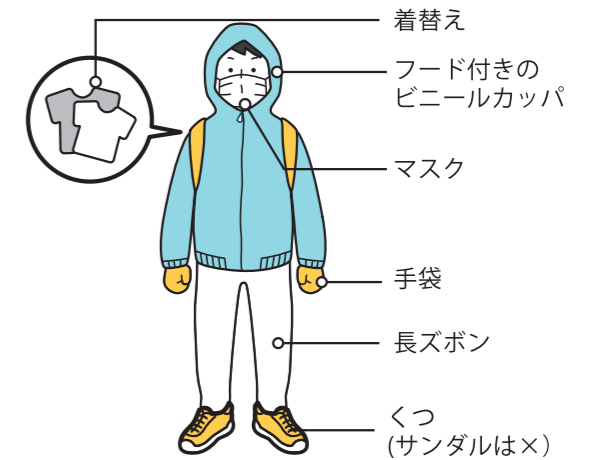
避難時のポイント

放射性物質を体の中に入れてない

マスクをしたり、タオルやハンカチで口や鼻をおおうことで対策につながります。

放射性物質を体に付けない

雨がしみこまず、なるべく肌をさらさない服装で移動しましょう。また、服などが放射性物質で汚染されている場合、着替えが必要となります。



家を出る時のポイント

指示の内容をよく聞く

ガスの元栓を閉め、電気はブレーカーを切る

戸締まりをする

近所の人に声をかける

長期間家を空けることを考えて着替え・貴重品・常備薬を持ち出す

市の取組み

市では安定ヨウ素剤の備蓄や原子力防災訓練を行っているほか、市内の平常時の空間放射線量率(大気中の放射線量)がどの程度なのかを把握するため、放射線量率を市内11か所(米原市役所本庁舎・山東支所、市内中学校、甲津原地先、大久保地先、藤川地先)で測定(月1回)しています。

詳しくは、市公式ウェブサイトをご確認ください。



<https://www.city.maibara.lg.jp/kurashi/shobou/genshiryoku/9302.html>

また、県内の空間放射線量率の測定結果は滋賀県環境放射線モニタリングシステムをご確認ください。



<https://housyasenkanshi.shiga.jp>

